

上記の精神分析学の代わりに行動生物学 (Behavioral Biology)が入ってきました。ノーベル賞学者の Konrad Lorenz, Niko Tinbergen, Karl von Frisch などの人々です。動物は自己と他者を認識して自己と同様な個体同士で集団を作ります。魚の大集団とか鳥の渡りの大集団とかがそれです。“情報”は負のエントロピーを持っているということですから集団を作って、乱雑さを減少させるということでしょうか。自己集団内では平等であるはずですが、他者は、有用でなければ、有害ということであるからです。

「生物間の攻撃と防御のタンパク質」内山竹彦・中嶋てるみ・名取俊二・正木春彦
蛋白質・核酸・酵素 46(4)301-(2001)

このような科学的な研究の流れは、人間にも適用され人間行動生物学と言う領域を作りつつあります。

[「Introduction to Human Behavioral Biology」 - YouTube](#)

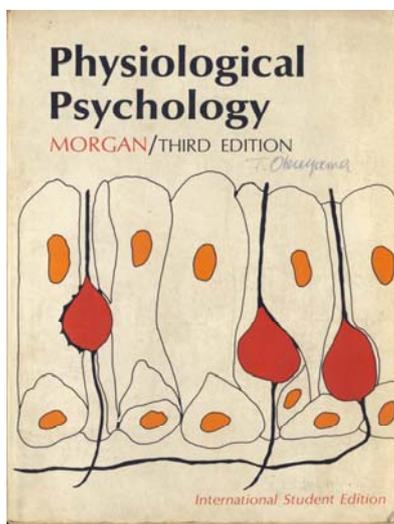
Feb 1, 2011 - Uploaded by **Stanford University**

Stanford professor Robert Sapolsky

gave the opening lecture of the course (15回の講義)

一方、この領域は物理的な **physiological psychology**, 化学的な **molecular psychology** と発展して来ました。(* 1. * 2)

* 1



Clifford T. Morgan University California, Santa Barbara
(1965) McGraw Hill New York, KOGAKUSHA Tokyo

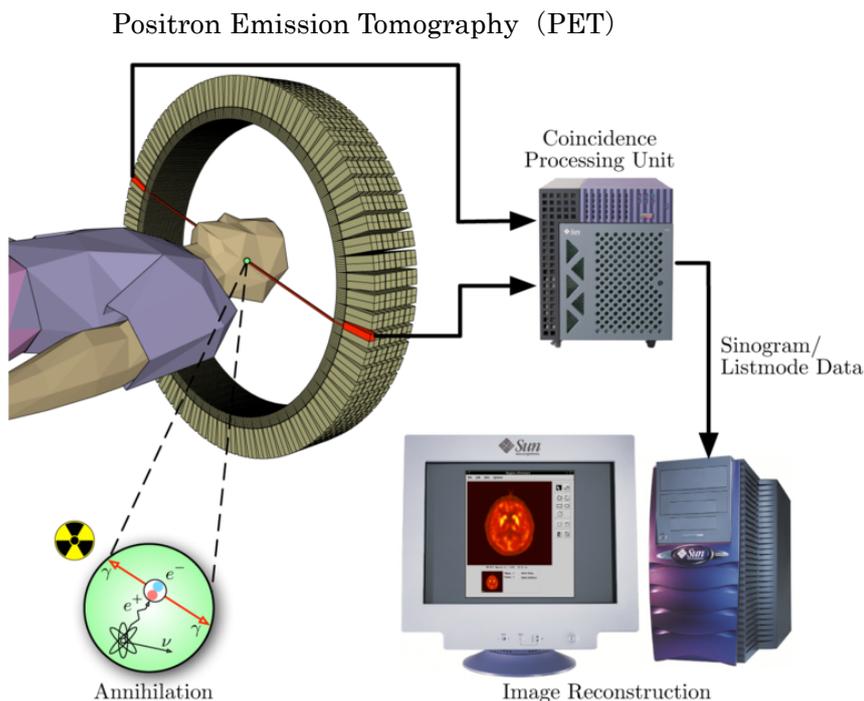
* 2

「Introduction to Molecular Psychology」

Walter J. Moor and Henry R. Mahler
J.Chem.Educ., 42(1) p49 (1965)

さらに、脳の生体観察が出来る MRI や PET) * 3) のような各種のコンピュータトモグラフィーと結びついて具体的な脳の作用が観察がなされつつあります

* 3



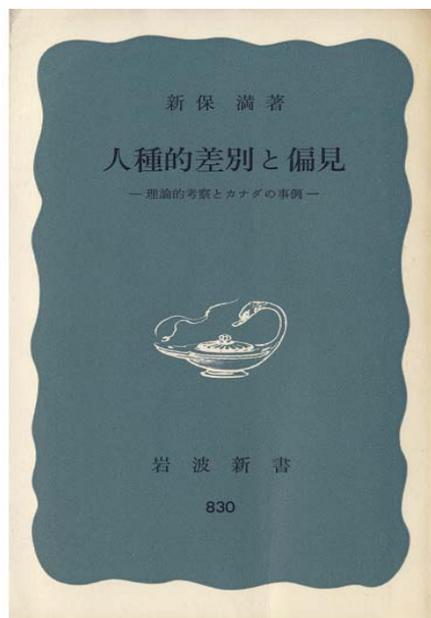
1-3 差別

集団の中では平等と言いましたが、集団の中にいると外敵に襲われる機会は少なくなり、子孫作りの相手を探すのも楽になります。

一方で、集団間の差が大きいほど差別が大きいのです。その例を示したものが図に示した書籍です。第 2 次世界大戦のときカナダでは同じ敵国人のドイツ人は比較的自由に生活できたのに、日本人は殆どの財産を取り上げられ、収容所に入れられていたと言のような事実が記載されています。この意味からいえば、人は同種の人々が集まっている方が安楽で、異なった人々といるのは感情的には不愉快と言うことです。動物と同じです。動物的には非同類を差別するのは、正常の行為で偏見ではありません。このような感情を抑えて、つまり、不愉快さを抑えて、平等を保つのが人間社会であるはずで、教育の役割です。民度の低い国々で暴動的な行為が起こるのは直接的な感情の発散です。少し進むと、法律で理屈をつけて行います。文明の皮をかぶ

った国々です。

「人種差別と偏見」-理論的考察とカナダの事例-新保満 (1972)岩波新書



1-4 いじめ

同類集団の内部に居る方が安楽だと申しましたが、実は、集団内でも更に分別が進みます。最終的には一つの個体まで進むことになります。ヨーロッパで**刑吏の蔑視化**が生まれる過程についてまとめた本が次図に示してあります。



「ヨーロッパ中世の宇宙観」 阿部謹也 [1,993] (4刷) 講談社学術文庫

江戸時代の日本でも奉行所の与力や同心などは旗本としては一段下に見られていたことと一脈相通ずるものがあります。

集団の中でも異質の物を見つけ場合、具体的な評価が出来ないと過剰尊重か過剰蔑視ということになります。 韓国の大統領の取り扱いは結構に興味深い例です。一般大衆から抜け出した変わり者は過剰に尊敬されます。手を出すと、権力によって。その本人が集団から除去されるかも知れないからです。大統領でなくなると除去に取り掛かります。つまり、無力の異質分子を集団から除去しようと言う行為が始まります、いじめです。

このような除去活動がいじめです。除去活動にしたがって、この世から去っていく人も出てきます。

このような活動をする人をなくするのは教育の役割しかないのですが、きわめて困難です。 殺人は悪いと言うことは誰でも知っていますが、殺人者はゼロにはなりません。

しかし、上述のように脳の中をのぞけるような方法が出来てきたわけですから、ナスのぼりの思想改革ではないですが、 人権無視の教育を試みる人も出てくるかもしれません。

**

**

**

**

3) 第44回定例会(2013/02/22)の報告

メール送付数 約 750

出席者 10名

- * 1 武野さんから昨日・今日・明日の記事(自己と非自己)についての説明がありました。今後、更に、何回かの記事をまとめて、CDをつくる予定です。
- * 2 定例会についてはISO Tc229 についての周辺と背景、日本の役割、対応する人々などについて説明しました。
- * 3 次回はSkype の練習会にすることが決まりました。

資料配布

- ①「免疫の意味論」多田富雄 新潮社 (1993)
- ②「免疫学個人授業」多田富雄-南伸坊 新潮社 (2000)
- ③ Nanotechnology-ISO/Tc229-第44回バイオテクノロジー標準化支援協会定例会

**

**

**

4) 第45回定例会のお知らせ

バイオテクノロジー標準化支援協会 第45回 定例会

日時 2013年3月22日(金) 午後1時30分-4時00分

参加費：無料

* (定例会は会員でも会員でなくても自由に出席して、自由に発言も出来ます。)
友人同士誘い合わせてご出席ください。出席するのが面倒な方はメールでご意見をお寄せください。

場所 八雲クラブ (ニュー渋谷コーポラス 10階-1001号) (首都大学東京同窓会)

住所： 渋谷区宇田川町 12-3

電話番号： 03-3770-2214

(地図はSABS NPO)ホーム・ページ にあります。)

話題

Skype 会議の練習

担当 田坂勝好 サポート荒尾

- * 1 以前と方式が変わっているので旨くいくかどうかわかりません。皆さんで、工夫して頂くことに致します。
- * 2 それぞれの出席者にパソコンを持参していただき、会場で相互に話しながら通信の実習をしていただきます。
- * 3 現在のパソコンでは、カメラ、マイク、Skype のソフトが装着されているものが多く、すぐに使用可能な様ですが、古いパソコンの場合にはカメラとマイクの別途購入が必要です。更にソフトの download も必要です。今回はこの点が主な作業となります。
- * 4 Google 会議の話も出れば・・・とおもいます。

* *

* * *

* *

5) ホームページにe-library のリストがあります。会員の方はその中から希望のものをご指摘ください。